

## 人権啓発活動実施報告書

- 1 都道府県・市町村・特別区名 川崎市
- 2 主管部局課係及び担当者名 市民文化局人権・男女共同参画室 西村 麻美
- 3 実施状況

### (1) 講演会

<b>【整理番号1】</b>	
① 実施年月日	① 平成28年3月24日(木)
② 事業名	② 人権フォーラム
③ 事業の概要	③ 現在の様々な人権問題等を踏まえ、人権をめぐる現状等について意見交換し、市民の声を幅広く伺うため開催。
④ 講師名及び職名	④ 中野裕二(駒澤大学法学部教授) 阿部浩己(神奈川大学法科大学院教授) 意見交換
⑤ 講演題目	⑤ 多様性を生かしたまちづくり ～もっと身近に！わたしの人権、あなたの人権
⑥ 対象者	⑥ 市民
⑦ 参加人員	⑦ 54人
⑧ 開催場所	⑧ 川崎市総合福祉センター(エポックなかはら)大会議室
⑨ 配布資料	⑨ 次第、講師レジメ
⑩ 効果検証結果報告 (資料別添)	⑩ アンケート実施(詳細は別添) アンケート回収率65%(35人/54人) 参加して人権についての関心や理解が深まったとする回答が88%(大変深まった37%、まあ深まった51%)であり、本事業が人権意識の普及に効果があったものと認められる。 また、意見交換を小グループに分かれて行ったところ「人権に関するいろいろな話が聞けた」、「意見交換で有意義な意見が伺えた」との回答が多かったことから、来年度は意見交換の形式をさらに工夫したい。
⑪ その他	⑪ 特になし

(2) 資料作成

<b>【整理番号 1】</b>	
1 実施年月日	1 平成 27 年 7 月
2 事業名	2 男女平等教育参考資料
3 事業の概要	3 学校における男女平等教育の参考冊子及び活用のための手引きの作成
4 資料名	4 自分らしくかがやく
5 対象	5 小学生 3 年生及び担任教員
6 印刷部数	6 児童用 13,500 部 教員用 750 部
7 配布方法・配布先	7 市内の小学校（私立含む）及び特別支援学校に配布
8 効果検証結果報告 （資料別添）	8 アンケートでは、イラストを用いた内容は好評であった一方、小学 3 年生には男女平等の視点での教育が難しく活用が難しいとの意見もあった。また、配布先の全 122 校中、アンケートの回答があったのが、19 校（15.6%）と非常に低く、アンケート手法等の見直しを検討したい。

【整理番号2】	
① 実施年月日	① 平成27年10～平成27年12月
② 事業名	② 子どもの権利に関する条例啓発用パンフレット、リーフレット
③ 事業の概要	③ 子どもの権利に対する理解を深め、子どもの権利が保障されるようにするために、子どもや市民むけにパンフレット（2種類）及びリーフレット（1種類）を作成し、配布。
④ 資料名	④ 子どもの権利に関する条例啓発用パンフレット（1・2）、リーフレット（3） 1 「かわさきし子どもの権利条例」（子ども向け、カラー） 2 川崎市子どもの権利に関する条例」（条文、二色） 3 リーフレット（A4版三つ折、カラー）
⑤ 対象	⑤ 子ども、市民、子ども関係施設職員
⑥ 印刷部数	⑥ 1 24,000部 2 7,500部 3 92,000部
⑦ 配布方法・配布先	⑦ 学校・施設での配布、研修・説明会等での配布
⑧ 効果検証結果報告	⑧ 市立学校で毎年11月に行われる、子どもの権利学習の時期にあわせて配布した。また、新小学1年生の保護者むけに、新入学生説明会用に1月に配布した。その他市内学校を含め市内子育て関係機関など計1,040施設に条例パンフレット・リーフレットを配布した。特に新入学説明会を実施する小学校・特別支援学校116校については、新入生が人口の増加に伴い前年に引き続き各校から追加送付の依頼があること等から、各学校を経由して確実に配布されている様子が推測される（新入学者数は説明会直前まで確定しないため、概算で配布している）。 庁内の子どもの権利施策推進部会で事業報告を行い、冊子の内容や配布方法等について確認した。そこで、人権（子どもの権利）について意識付けを行うためには、今後も継続して配布することが重要であるとの共通認識が得られた。

(3) スポット広告・インターネット 該当なし

(4) 新聞広報 該当なし

(5) 地域総合情報誌

<b>【整理番号1】</b>	
① 実施年月日	① 平成27年10月30日、11月13日、11月27日(3回)
② 情報誌名	② タウンニュース
③ スペース	③ カラー7センチ×2段(6.3センチ)×3回
④ 発行部数	④ 307, 100部×3回
⑤ テーマ	⑤ ある同性愛者の思い
⑥ 効果検証結果報告	⑥ 評価会議実施 川崎市人権・男女共同参画連絡会議性的マイノリティ専門部会の中で実施した。川崎市全区を対象とする地域総合情報誌であり、評価会議の結果、11人全員が人権意識の普及に効果があったと評価。人権フェアや子どもの権利の日のつどいなど当該誌の発行日に近い日時の事業について広報記事を併せて掲載したことで、相乗効果があった。
⑦ その他	⑦ 特になし

(6) 研修会

<b>【整理番号1】</b>	
① 実施年月日	① 平成28年1月19日(火)
② 事業名	② 川崎市人権学校
③ 事業の概要	③ 市民一人ひとりが互いの人権を尊重し合う社会を目指して、様々な人権に関する認識を深め、人権問題を考える機会として、川崎市人権学校を開催。
④ 講師名及び職名	④ 杉山 文野氏(NPO法人ハートをつなごう学校代表)
⑤ 講演題目	⑤ ～性的マイノリティについて考える～「ダブルハピネス」
⑥ 対象者	⑥ 市民、企業人事担当者、市職員等
⑦ 参加人員	⑦ 151人
⑧ 開催場所	⑧ 川崎市総合福祉センター(エポックなかはら)大会議室
⑨ 配布資料	⑨ リーフレット
⑩ 効果検証結果報告 (資料別添)	⑩ アンケート実施(詳細は別添) アンケート回収率82.78%(125人/151人) アンケートを実施したところ「大変満足だった」との回答が80.8%であり、「まあ満足だった」との回答も合わせると98.4%が満足だったという回答になり、人権啓発事業として効果があったものと認められる。「当事者が講演することで、LGBTについて分かりやすく、関心が深まった」とする意見が多かった。今後も人権課題に直面する当事者から話を伺う講演会形式で行いたい。
⑪ その他	⑪ 平成27年12月15日毎日新聞 平成27年12月25日タウンニュース(川崎区・中原区・多摩区版)による報道あり

【整理番号2】	
① 実施年月日	① 平成27年6月4日(木)～平成28年3月9日(水)
② 事業名	② 子どもの権利学習派遣事業
③ 事業の概要	③ 子どもたち一人ひとりが持つ権利を教え、暴力やいじめ、DVなどの権利侵害から自分を守る方法を身につけるための参加型学習
④ 講師名及び職名	④ CAPかわさき 代表 稲葉辰子 他 エンパワメントかながわ 理事長 阿部真紀 他 青梅こども未来(CAPプラム) 理事長 稲葉恭子 他
⑤ 講演題目	⑤ 「子どもの権利学習派遣事業(CAPワークショップ)」 教育委員会事務局 人権・共生教育担当
⑥ 対象者	⑥ 小学2年から4年生児童 (関連事業に「保護者向けワークショップ」あり)
⑦ 参加人員	⑧ 3,734人
⑧ 開催場所	⑧ 市内31小学校(115学級)
⑨ 配布資料	⑨ なし
⑩ 効果検証結果報告 (資料別添)	⑩ アンケート実施(詳細は別紙) 児童及び担任教諭にアンケートを実施し、小学校31校からアンケートを回収した。 CAPを実施して、子どもたちに役に立ったと思うか。に対して96%。来年度もCAP実施を希望するかの問いには、91%の教師が「はい」と答えているという結果になった。 アンケート調査結果を見ると教師からの感想としては、CAP実施後の子どもたちは、気軽に大人に相談しても良いと理解した結果、「悩み事の相談が増えたり、友達との対人関係で相手の立場を理解するようになった」「悪口が減る」「口調が柔らかくなる」「子どもたちの権利についての理解がより深まった」「自己防衛の意識が高まったと思う」などの感想が寄せられている。子どもたちに変化がみられるようになったことで、教室の子どもたちの様子に手応えや事業の有効性を感じた教師も多かったようである。実際に参加した児童の感想では、CAPを受けたことがきっかけで、困っていることをためらわずにトレーナーや担任教員、家族に相談できたこと、人に話すことで安心感を得たこと、また、人権や他者へのやさしさや思いやりの大切さを学んだ、などの感想があげられた。アンケートの結果を考察すると、子どもたちに直接、人権尊重の意識づけを行う実践的な学習活動は、いじめ・暴力やDV、児童虐待などへの対処方法として、非常に効果的な取組と考えられる。子どもの権利学習・CAP事業は、小学校2～4年生の児童を対象に、参加型・体験型のロールプレイ学習を行い、その後、個別に相談を受けまたは指導を行うなど、きめ細かい配慮を行う事業である。したがって現実に悩みや課題を抱えている子どもたちへの対処法としての効果が期待できる。また、トレーナーと教員で実施後の振り返りの時間

をつくり、気になる児童の情報交換を実施したり、問題点が明確になった事例も出てきている。さらに、成長段階での人権意識の定着にも繋がるものであるため、短期的にも長期的にも効果の高い事業であると考えられる。

(7) 地域人権啓発活動活性化事業（スタジアム啓発）

【整理番号1】	
① 実施年月日	① 平成27年7月11日（土）
② 事業名	② 人権啓発Jリーグ連携事業（Jリーグ川崎フロンターレと連携・協力した啓発活動）
③ 事業の概要	③ Jリーグ川崎フロンターレと連携・協力して、同クラブのホームゲームにおいて、以下の啓発活動を実施。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・スタジアム外の広場に人権啓発ブースを設置し、子どもの人権110番等子どもの権利に関する横断幕及びのぼり旗を掲出。</li> <li>・来場者に対し、子どもの人権110番を記載したウエットティッシュを配付。</li> <li>・試合前に競技場内で人KENまもる君・人KENあゆみちゃんのウォークバルーンの行進及びスタジアムビジョンによる啓発ライブ上映。また、ハーフタイム時にもスポット映像による啓発アナウンスを実施。</li> <li>・ブース内でアンケートを実施し、回答者に人権啓発用フロンターレオリジナルデザインのミニタオルをプレゼント。さらに、子ども限定の三角くじ（はずれなし）を実施し、人権啓発グッズをプレゼント。</li> </ul>
④ 対象者	市民ほか
⑤ 参加人員	⑤ 23,793人（動員観客数）
⑥ 効果検証結果報告 （資料別添）	⑥ アンケート実施 1,025枚（詳細は別添） 回答者のうち約88%が「今後もこのような人権啓発イベントを行うべき」との回答があり、人権啓発事業として効果があったものと認められる。（908人／1,025人）

(7) 地域人権啓発活動活性化事業（人権スポーツ教室）

【整理番号 1】	
① 実施年月日	① 平成 27 年 10 月 15 日（木）
② 事業名	② 人権啓発 J リーグ連携事業（川崎フロンターレと連携・協力した啓発活動）
③ 事業の概要	③ 保育園にて川崎フロンターレと連携して、紙芝居やユニバーサルデザインの話などにより啓発活動を実施する。 ・フロンターレコーチも加わり、人権啓発紙芝居「白い魚とサメの子」の読み聞かせ ・紙芝居の感想と、身近にある点字等、人権をテーマとしたお話 ・フロンターレコーチによるサッカー教室
④ 対象者	④ 未就学児
⑤ 参加人員	⑤ 在園児 96 人（3 歳・4 歳・5 歳児クラス）
⑥ 開催場所	⑥ みやざき保育園（川崎市宮前区）
⑦ 効果検証結果報告	⑦ 評価会議実施 実施園の園長、担当保育士、人権擁護委員、横浜地方法務局川崎支局、川崎市人権・男女共同参画室の 13 名で評価会議を実施。園長から子ども達が最後まで静かに話を聞いて良かったとの評価を受けた。また、人権擁護委員の質問に対し、複数の園児たちが挙手した勢いで立ち上がり、後方の園児から「見えないよ」と訴える場面があったが、人権擁護委員が「おもだちへのおもいやりだね」と子どもの思いを受け止めて紙芝居の狙いに触れられ、事業は有意義に終了した。



【整理番号2】	
① 実施年月日	① 平成28年1月21日(木)
② 事業名	② 人権啓発Jリーグ連携事業(川崎フロンターレと連携・協力した啓発活動)
③ 事業の概要	③ 保育園にて川崎フロンターレと連携して、紙芝居やユニバーサルデザインの話などにより啓発活動を実施する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・フロンターレコーチも加わり、人権啓発紙芝居「白い魚とサメの子」の読み聞かせ</li> <li>・紙芝居の感想と、身近にある点字等、人権をテーマとしたお話</li> <li>・フロンターレコーチによるサッカー教室</li> </ul>
④ 対象者	④ 未就学児
⑤ 参加人員	⑤ 在園児130人(3歳・4歳・5歳児クラス)
⑥ 開催場所	⑥ 等々力保育園(川崎市中原区)
⑦ 効果検証結果報告	⑦ 評価会議実施 実施園の園長、人権擁護委員、横浜地方法務局川崎支局、川崎市人権・男女共同参画室の11名で評価会議を実施。 前回と同じ紙芝居を使用した。子どもたちは体育座り姿勢を崩さず、静かに聞いていた。複数で交代して読み聞かせをしたため、大人の声が四方から飛んできたのが、園児の注意を継続して引きつける効果があったとの評価を受けた。園児からは「おともだちを大切にしたい」「みんなにやさしくしたい」などの感想が寄せられた。 なお人KENまもる君のウォークバルーンは大人にも好評で、急きょ年長児と記念撮影が行われた。

(7) 地域人権啓発活動活性化事業（その他の活性化事業）

<b>【整理番号1】</b>	
① 実施年月日	① 平成27年11月23日（祝・月）
② 事業名	② かわさき人権フェア2015
③ 事業の概要	③ 人権週間を記念した街頭啓発を行い、人権について市民に考えてもらう機会。
④ 対象者	④ 市民及びJR武蔵溝ノ口駅南北自由通路通行者
⑤ 参加人員	⑤ 3,000人
⑥ 開催場所	⑥ JR武蔵溝ノ口駅南北自由通路
⑦ 効果検証結果報告 （資料別添）	⑦ アンケート実施（詳細は別添） アンケート回収率100%（200人/200人） アンケートを実施したところ「大変満足」との回答が40%であり、「まあ満足」との回答も合わせると94%が満足だったという回答であり、人権啓発事業として効果があったものと認められる。 人権についての関心が「深まった」との回答は「大変深まった」との回答が38%、「まあ深まった」との回答も合わせると87%が深まったという回答であった。昨年までJR川崎駅地下の川崎アゼリアで行っていたが、改修に伴い、平成27年度は開催場所を変更して実施した。駅改札への通り道であり、展示等をじっくり観てもらえるか、参加人数が少なくなるのではないかと心配されたが、実際は駅に直結する場所であったため、参加者の年齢層は幅広く、人数は例年と同数程度に集まり、電車からの乗降者等がじっくり観ていた。アンケートの結果を踏まえ、来年度はフェアの実施内容を変更し、市民が人権をより身近に、関心を深められる内容としたい。

【整理番号2】	
① 実施年月日	① 平成27年10月3日(土)
② 事業名	② 拉致被害者家族を支援する市民のつどい
③ 事業の概要	③ 拉致問題について理解を深めるため、国の取り組み報告、横田御夫妻の講演、ミニコンサート等。
④ 対象者	④ 市民
⑤ 参加人員	③ 250人
⑥ 効果検証結果報告 (資料別添)	⑥ アンケート実施(詳細は別添) アンケート回収率44.8%(112人/250人) アンケートを実施したところ、満足の内容であったとの回答が74%であった。昨年度と比較すると、20パーセント下がっている。満足のいかなかった理由として、会場の音響設備の不具合によるものであり、対談及びミニコンサートの内容が不十分であるといった意見はほとんどなかったため、拉致問題の啓発としては効果があったものと認められる。 また、参加者から、「横田御夫妻から直接お話を伺うことで拉致問題が深刻であることを考えさせられた」「一日も早い拉致問題の解決を望む」といった意見が寄せられた。 来年度についても、拉致被害者家族の思いに寄り添いながら、実施内容を検討していく。
7 その他	7 10月4日付け朝日新聞、読売新聞、神奈川新聞、東京新聞、産経新聞による報道あり。

(8) 交通広告 該当なし

## (9) その他

【整理番号1】	
① 名称	① かわさき子どもの権利の日のつどい
② 実施年月日	② 平成27年11月7日(土) (パート1) 平成27年12月12日(土) (パート2)
③ 事業名	① 「子どもの権利の日」広報啓発事業
④ 事業の概要	② 市民に子どもの権利についての関心と理解を深めてもらうための、広報・啓発事業。
④ 対象者	④ 市民
⑤ 参加人員	⑤ 548人
⑥ 効果検証結果報告 (資料別添)	⑥ アンケート実施 アンケート実施(詳細は別添) アンケート回収率 21.7% (119人/548人) 事業後の反省会にてアンケート結果を検証したが、今回初めて市内の南部と北部に2回に分けて開催した結果、各回とも開催区の参加者が最多となり、例年参加の少ない地域への広報・啓発を達成できた。「子どもの権利(人権問題)」について感じたことは何ですか」との設問では各回とも「子どもがありのままでいられるようにしたい」との回答が11.1%で最多であり、ついで「子どもにとって何が一番いいことか考えたい」との回答が8.2%で続き、本イベントへの参加を通して子どもを一人の権利主体として大切にすることを子どもも大人も同じように認識していることが確認され、人権意識の普及に効果があったものと認められる。また、子どもの権利を題材としたクイズラリーの満足度も高く、参加しながら子どもの権利に触れ、学べる機会を創出できた。 次年度も子どもの権利を体験しながら学べる機会になるよう子どもも大人も一緒に参加できるイベントを企画する。また、アンケートの回収率の低さは、企画内容や会場レイアウト、全体の動線と合わせて考慮し改善する。
⑦ その他	⑦ 11月6日神奈川新聞、11月27日号地域情報紙ばど、10月30日号、11月13日号、11月27日号のタウンニュースによる報道あり

【整理番号2】	
1 実施年月日	1 平成27年8月～平成28年3月
2 事業名	2 人権啓発絵本製作事業
3 事業の概要	3 子ども、特に幼児が人権について知る機会を作るために、人権の大切さを伝える内容の絵本を制作し、市内保育園・幼稚園等に配布。
4 対象者	4 子ども（主に幼児対象）及び市民
5 制作数	5 600冊
6 効果検証結果報告	6 市内の保育園や幼稚園約200園に配布し、子どもに読み聞かせを行った。絵本を読み聞かせた園からは、絵をみるだけでも理解でき、小さい子どもでも人権の大切さが分かる内容でわかりやすく良かった、との感想が寄せられた。また、子育ての場面を基にしたストーリーが大人には親近感があり、子どもの気持ちをくみ取ることや子どもの目線に合わせて一緒に考えることの大切さなどを読みながら感じられたとの感想があった。 一方で、主人公の友達の心情にももう少し触れた方が良かったのではないか、との指摘もあった。

【整理番号3】	
① 実施年月日	① 平成27年11月
② 事業名	② 子どもの人権相談窓口広報啓発用クリアファイル作製
③ 事業の概要	③ 子どもの人権侵害に関わる相談等の窓口について広報・周知するため、クリアファイルを作製し、市内の中学校を通して1年生の生徒に配布するとともに、子ども向けイベント等で来場者に配布。
④ 対象者	④ 子ども及びその保護者
② 作製数	⑤ 11,000部
⑥ 効果検証結果報告 (資料別添)	<p>⑥ 評価会議実施</p> <p>子どもの相談については、紙媒体での広報として、子ども相談カードを作成し、市内の小・中・高等学校の全児童・生徒に配布しているほか、保護者用にもチラシを作成し、市内の保育園、幼稚園の園児の保護者や小学校の児童の保護者にも配布している。また、ポスター等も学校などの関係施設に掲出を依頼しているところである。</p> <p>その他の広報手段としては、啓発パネルの区役所等での掲出や小学校や中学校での人権オンブズパーソン子ども教室の実施、HP、映像媒体等である。</p> <p>今回、子ども向けの啓発物として、裏面に繰り返しメモが書けるなどデザインを工夫したクリアファイルを作製し、中学生等に配布したところ、先述の子ども教室のために学校に出向いた際の中学生からの反応は大変好評であった。また、イベント配布時には先述の保護者用チラシをはさんで配布したこと、クリアファイルなので、子どもの手元にとどまりやすいことから、保護者及び子どもからの、アクセス数の増加が期待できる。</p>

○平成27年度人権啓発活動地方委託事業実施結果

川崎市ホームページ 市政情報＞平和・人権・交流＞総合的人権施策＞人権啓発

<http://www.city.kawasaki.jp/250/page/0000077300.html>